

平成19事業年度

決算報告書

第2期

自 平成19年4月 1日

至 平成20年3月31日

公立大学法人 九州歯科大学

平成19年度 決算報告書

公立大学法人 九州歯科大学

1 収支計画予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
費用の部	3,272	3,200	△ 71	
經常費用	3,272	3,185	△ 86	
業務費	3,064	2,975	△ 89	
教育研究経費	424	388	△ 35	(注1)
診療経費	544	596	52	(注2)
人件費	2,096	1,990	△ 105	(注3)
一般管理費	205	208	3	(注4)
(減価償却費 再掲)	(164)	(165)	(0)	
財務費用	3	2	0	
臨時損失	—	14	14	(注5)
収益の部	3,272	3,304	32	
經常収益	3,272	3,270	△ 1	
運営費交付金収益	1,647	1,603	△ 44	(注6)
授業料収益	332	332	0	
入学金収益	51	54	3	(注7)
検定料収益	12	11	0	
附属病院収益	978	1,003	25	(注8)
受託研究等収益	4	4	0	
受託事業等収益	—	0	0	
補助金等収益	87	82	△ 4	(注10)
寄附金収益	17	13	△ 3	(注9)
資産見返運営費交付金等戻入	2	1	0	
資産見返補助金等戻入	98	97	0	
資産見返寄附金戻入	4	2	△ 1	
資産見返物品受贈額戻入	23	22	0	
財務収益	0	1	1	
雑益	17	37	20	(注11)
臨時利益	—	33	33	(注12)
純利益	—	103	103	

(注記) 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満については切り捨て表示しています。

○予算と決算の差異について

- (注1) 教育研究経費については、主として光熱水費が当初見込みよりも34百万円減少したことにより、予算金額に比して決算金額が35百万円少額となっています。
- (注2) 診療経費については、主として診療材料費が当初見込みよりも26百万円増加したこと、及び予算段階では見込んでいなかった大型診療機器の修繕に14百万円を充てたことにより、予算金額に比して決算金額が52百万円多額となっています。
- (注3) 人件費については、主として退職給付費用が当初の見込みよりも60百万円、教員人件費が39百万円それぞれ減少したことにより、予算金額に比して決算金額が105百万円少額となっています。
- (注4) 一般管理費については、主として建物・設備修繕計画の前倒しにより当初見込みよりも20百万円増加したこと、及び保守業務委託その他管理経費の節減等により当初見込みより17百万円減少したことにより、予算金額に比して決算金額が3百万円多額となっています。
- (注5) 臨時損失については、主として附属病院の医療事故に伴う和解金(後に保険金から全額補てん済)を12百万円支払ったことにより、予算金額に比して決算金額が14百万円多額となっています。
- (注6) 運営費交付金収益については、主として予算段階での診療収入予測と年度交付決定に適用された数値に差異が生じたことにより当初見込みよりも58百万円増加したこと、また費用進行基準を採用している退職手当給付費用が60百万円、法人の事情による特別の経費が40百万円それぞれ当初見込みよりも減額となったことにより、予算金額に比して決算金額が44百万円少額となっています。
- (注7) 入学金収益については、大学院入学者数が当初見込みを上回ったことにより、予算金額に比して決算金額が3百万円多額となっています。
- (注8) 附属病院収益については、入院収入が19百万円、外来収入が7百万円それぞれ当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が25百万円多額となっています。
- (注9) 寄附金収益については、主として収益化の対象となる寄附金のうち、前期から繰越金が当初見込みよりも5百万円減額となったこと及び今期受け入れた寄附金が当初見込みよりも2百万円増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が3百万円少額となっています。
- (注10) 補助金収益については、臨床研修費等補助金の交付基礎となる臨床研修医受入数が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して決算金額が4百万円少額となっています。
- (注11) 雑益については、主として科学研究費補助金間接経費収入が10百万円、財産貸付料収入が6百万円それぞれ当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が20百万円多額となっています。
- (注12) 臨時利益については、主として注4に示した理由による保険金収入12百万円、前期診療収入の修正益16百万円を計上したことにより、予算金額に比して決算金額が33百万円多額となっています。

2 資金計画予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
資金支出	3,199	3,183	△ 15	
業務活動による支出	3,104	3,012	△ 92	(注1)
投資活動による支出	27	30	3	(注2)
財務活動による支出	40	41	1	(注3)
翌年度への繰越金	28	98	70	(注4)
資金収入	3,199	3,367	168	
業務活動による収入	3,170	3,270	100	
運営費交付金による収入	1,648	1,706	58	(注5)
授業料等による収入	420	419	△ 1	(注6)
附属病院収入	978	1,003	25	(注7)
受託研究等による収入	20	21	2	(注8)
補助金による収入	87	82	△ 4	(注9)
その他収入	17	37	20	(注10)
投資活動による収入	0	1	0	(注11)
財務活動による収入	—	—	—	
前年度からの繰越金	29	95	66	(注12)

(注記) 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満については切り捨て表示しています。

○予算と決算の差異について

- (注1) 業務活動による支出については、主として教員人件費が39百万円、臨床研修医に係る人件費が12百万円、光熱水費が22百万円それぞれ当初見込みよりも減少したことにより、予算金額に比して決算金額が92百万円少額となっています。
- (注2) 投資活動による支出については、主として予算段階では未定であった駐車場ゲート設置工事及び人事管理システム整備に係る経費を執行したことにより、予算金額に比して決算金額が3百万円多額となっています。
- (注3) 財務活動による支出については、予算段階では未定であったリース資産(診療機器)取得に係る経費を執行したことにより、予算金額に比して決算金額が1百万円多額となっています。
- (注4) 翌年度への繰越金については、主として今年度計上した目的積立金66百万円を翌年度に繰り越したことにより、予算金額に比して決算金額が71百万円多額となっています。
- (注5) 運営費交付金による収入については、予算段階での診療収入予測と年度交付決定に適用された数値に差異が生じたことにより、予算金額に比して決算金額が58百万円多額となっています。
- (注6) 授業料等による収入については、主として研究生受入数が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して決算金額が1百万円少額となっています。
- (注7) 附属病院収入については、入院収入が19百万円、外来収入が7百万円それぞれ当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が25百万円多額となっています。
- (注8) 受託研究等による収入については、受託研究及び受託事業並びに寄附金による収入がそれぞれ当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が2百万円多額となっています。
- (注9) 補助金による収入については、臨床研修費等補助金の交付基礎となる臨床研修医受入数が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して決算金額が4百万円少額となっています。
- (注10) その他収入については、主として科学研究費補助金間接経費収入が10百万円、財産貸付料収入が6百万円それぞれ当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が20百万円多額となっています。
- (注11) 投資活動による収入については、受取利息が当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が1百万円多額となっています。
- (注12) 前年度からの繰越金については、予算段階では未定であった18年度剰余金について福岡県から剰余金の使途の承認を受け、目的積立金として計上したことにより、予算金額に比して決算金額が66百万円多額となっています。